

## 来賓祝辞 末松 信介 文部科学大臣



起業家の人とよく話をするが、「成長するには変化をすることが大切だ」と、どなたもおっしゃる。私は、明石北高等学校がやはりこの50年、しっかり変化をしてきたのだと思います。平成22年にSSH指定研究校になり、それ以来この地域の理数系の中心でありますので、これからも大いにこの学校が明石の中でも、兵庫県の中でも引っ張っていただきたいと思っています。

ノーベル物理学賞を受賞された眞鍋淑郎さんとテレビ電話で話す機会がありました。人間の活動が地球環境に与える影響を最初に指摘された方があります。CO<sub>2</sub>の増加が地球温暖化につながるという警鐘を鳴らした最初の方です。電話をしたら、先生は「好奇心」という言葉をお使いになる。「すべて好奇心から始まる」とおっしゃいました。

た。今の若い人たちに何か伝える言葉はありませんかと言いますと、「こう伝えてください」と。「『好きこそものの上手なれ』。カッコよさや他人の見た目や職業などを選ぶのではなくて、自分が得意なこと、やっていて楽しくなることをやるべきだ。そのことをぜひ伝えてください」とおっしゃいました。日本人は他人の目を気にするという国民性が、多少ございます。やはり、これからの若い人たちは、他人目線ではなくて、自分目線で職業を選び、人生をしっかりと歩んでいただきたい、そのことを願っています。

## 来賓祝辞 西村 康稔 衆議院議員



今日は3年生が出席されているということですので、ぜひ自分の夢に向かって、一生懸命ずーっと考え、努力して歩んでほしいということをお話しします。この1年半、コロナの担当大臣をさせていただきました。誰もが経験したことがなくて、答えがない世界です。でも、責任者として朝から晩まで、ずーっと考えました。一人で考えてもわかりませんから、専門家のみなさんの意見をとにかく聞いて、何をすべきかずーっと考えました。大学入試では、簡単な問題から解いて点数を稼ぎますが、実は、コロナの対策みたいな対応は、難しい問題が1問だけ出されるわけです。簡単な問題から解いて点数を稼ぐなんてことができない世界。普通にやると、受験を経験してテクニックだけを学ぶと、後回しにする問題なんですね。申し上げたいのは、難しい問題であっても、ぜひ取り組んでほしい。簡単な問題を全部解いて行って、点数を稼いで、それで大学には入れると思いますが、それで人生は絶対に成功しないというか、それでは人生は通用しないということなんですね。人生はいっぱい難しい課題が次から次へと現れてきますから、それについて一生懸命考えて、いろんな人の意見を聞いて、そして自分がベストだと思う答えを出してほしい。自分なりの答えを出してほしいと思います。自分の夢に向かっていろんな障害、いろんな課題があると思いますけれども、その時に先送りできないわけですね。ぜひ正面から課題、障害に立ち向かっていただいて、そしてそれを乗り越えていく。これを、ずっとずっと努力を続けてほしいなど。必ず道は開けました。必ず道は開ける。ぜひ歩んで行ってほしいと思います。

## 兵庫県教育委員会あいさつ 西上 三鶴 教育長



在校生のみなさんにお願ひがあります。これまで私が紹介したのは、全て先輩が築かれた明石北高校です。昨年来から新型コロナウイルス感染症の影響で学校生活に多くの制約や行事の中止・延期など、期待に添えない事態となっています。その中ですが、次の10年、60周年、さらには100周年を迎えた時の在校生、つまりみなさん方の後輩に伝えたいこと、そのメッセージをぜひつくってほしいと思います。このことはみなさんにとっても記憶に残る、思い出になると思います。これから、新型コロナウイルス感染症に限らず、みなさんの人生で様々な苦難に直面すると思いますが、ぜひ前向きに取り組んでもらいたいと思います。

## 生徒代表よろこびのことは 本多 主幸 生徒会長



新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、明石北高校のこれまでの伝統をそのまま受け継ぐことが困難な状況になっています。しかし、この状況は、新たな伝統を創造していくチャンスでもあります。勉強だけでなく、部活動や学校行事などでも、私たちの自主性をさらに発揮し、多くの制約があるなかで、何ができるかを自分たちで考え、新しいことに挑戦していけるのではないかと思います。生徒会も、先輩方がこれまで築いてくださった伝統を大切にしながら、この学校をさらに進化させるという強い意思を持って、よりいい学校にアップデートできるように取り組んでいくつもりです。

まだ見ぬ後輩たちにとって、「明石北高校がどの高校よりも入学したい学校」、「明石北高校で過ごせて本当に良かったと思えるような学校」であり続けることができるよう、私たちは今できることを考えて実行し、この大きな節目を機に、新たな歴史と伝統を紡いでいければ、と思います。



▲ 1・2年生は教室でオンライン参加



▲ 3年生は式場に。主人公として大変立派な態度でした。